第７号（不定期に発行）

校長室通信

津谷中学校　校長　今野勝美

令和２年９月８日（火）

以前，校長室通信を発行していた校長先生がいらしたということを伺っておりましたので，私も不定期ながら生徒または保護者の皆様に向けて発行したいと思います。

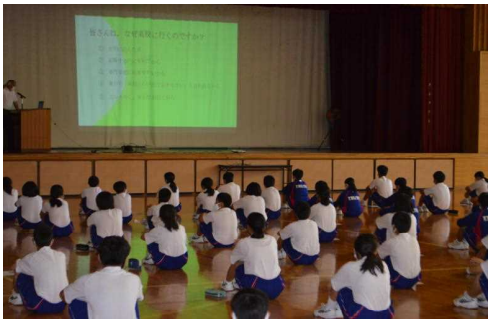
今回は　**最終学歴**　についてです。

先日［９月１日］の朝会で『人はなぜ勉強するのか？』というテーマで話しました。

生徒たちに「皆さんはなぜ高校に行くのですか」と質問を投げかけたところ，返ってきた答えは

第１位　就職するのに有利だから
第２位　大学や専門学校に行くため
第３位　なんとなく，みんなが行くから
第４位　親から「高校くらい出ておきなさい」
　　と言われるから

でした。



［９月１日朝会の様子］

現在は，高学歴社会と言われており，高校卒業が当たり前のようになってしまっており，高校の義務教育化の話題も出ている時代です。ですから，中学校卒業者が働く，または進学する専門学校が狭まっていることは事実です。ひと昔前であれば，中卒者が社長になり，議員になり，内閣総理大臣にまでなるということもありましたが，今の時代ではそのようなこともなくなりました。

そこで，高学歴社会にちなんで，生徒たちに就職試験でなぜ「最終学歴」を問うかということを説明しました。

それは，採用活動には莫大な時間とお金がかかるからです。採用段階では，その人の性格や特徴，能力などを１００％把握することができず，募集の段階で最終学歴という制限をかけるようにしているからです。

また，若手ビジネスパーソン向けのキャリアアップマガジン“リビーキャリア”によれば，企業（会社）はどうして大学卒業者を欲しがるのか？理由として，

（１）大卒者だと優秀な人材が採れる可能性が少しでも上がるからです。
（２）専門職・技術職での募集においては，大学や大学院では高度な専門知識を身に付けることができるため，その知識やスキルを必要としている企業は大卒以上を募集するからです。
（３）求人に対して募集があまりにも多い場合に，足切りとして学歴を設定している企業も多く存在します。学歴不問とすると募集が来すぎてしまって対応できなくなる（＝優秀な人材を見つけるためのコストがかかりすぎる）ためです。

高卒でも大卒に負けないためには！

これまで，高学歴社会における現代において，いかにも大学卒業者が就職するのに有利なようなことを述べてきましたが，本当にそうでしょうか？

（１）企業が学歴以外で見るとすれば，資格を含めた手に職を付けているかということです。学歴から判断できることは「仕事ができそう」にとどまりますが，「経歴３年」などの経歴や具体的な資格名は採用担当者に確信を与えるはずであり，即戦力として期待できます。

（２）いきなり正社員として採用されるのは難しいですが，アルバイトや契約社員として希望の企業に入ることはそう難しくない場合があります。そしてその後のキャリアアップとして，正社員登用を狙う方法もあります。

（３）就職先を学歴以外の部分で判断されやすいところに移すという方法もあります。例えばＩＴ業界やクリエイター的な仕事であれば，学歴よりも圧倒的に経験・スキルが重視されます。特にＩＴ業界は市場拡大にともなって人材不足が著しいと言われております。

【大卒と高卒，給料の違い】

どちらがどうなのか調べてみました。基本として，高卒は大卒よりも４年間早く給料を取得し，大卒は４年間にかかるお金がおよそ８００万円と差が出ることが考えられます。しかし，「平成２９年賃金構造基本統計調査結果」のデータから見ると次の通りです。

	高　　卒	大　　卒	その差
初任給	１７．９　万円	２０．６　万円	**２．７　万円**
生涯獲得賃金	１ 億 ４，９６４ 万円	１ 億 ８，６２６ 万円	**３，６６２ 万円**

＜大卒と高卒，一長一短＞

（１）大卒　○　給料が高い。大学で自分の好きなことを専門に学ぶことができる。
　　▲　大学の学費がかかる。働くのが遅くなる。地元就職が難しい。

（２）高卒　○　給料が早くもらえる。地元に就職しやすい。早く自立ができる。
　　▲　大卒に比べて給料が低い。

今回のまとめとしては，大卒と高卒，それぞれ一長一短あるということ。高学歴社会において勉強することは，その人自身を磨き上げるとともに，就職試験等ではその努力した結果を評価されると言うことです。ですから，多くの人は皆勉強するのです。韓国，中国を見て下さい。皆勉強しています。大学入試で遅れそうになった学生をパトカーや白バイが送迎する映像を何度も見ていると思います。

さあ，津谷中生諸君！

自分の将来についてしっかり考え，目標をもって勉強しましょう！